

令和8年度 監理技術者講習 開催のお知らせ

本講習は公益社団法人日本建築士会連合会が国土交通省より「監理技術者講習」の登録講習機関の認可を受け、福井県建築士会が開催するものです。右記の日程表のとおり開催します。特に、一級建築士、1級建築施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士等の建築工事分野で活躍されている監理技術者を対象に、実務に役立つ充実した内容の講習を行いますので、この機会に多くの建築施工系監理技術者の受講をお願いします。

受講申込：随時行っています。

受講料：テキスト・講習修了ラベル代込、税込

・WEB申込み…9,500円／1名 ・郵送・窓口申込み…10,000円／1名

講義の内容：DVDによる講義+修了試験（計360分）行います。

申込み方法：日本建築士会連合会のホームページで「監理技術者講習」の申込ページをご覧ください、お申し込みください。

<https://www.kenchikushikai.or.jp>

問合せ先：（一社）福井県建築士会 TEL 0776-24-8781 まで

建築士会が行う
監理技術者講習
の特色

- ① 建築に特化した実務に役立つ講義
- ② わかりやすく利便性の高いテキスト使用
- ③ 建築士会CPD単位6単位の付与
- ④ 上記以外に建築士会CPD制度加入者の方は建築士会連合会のWEB問題回答でのCPD単位（2ヶ月に一度3単位取得可能年数最大18単位）が受講後5年間取得可能となります。

土木系の監理技術者の
受講も可能です。

◆令和8年度監理技術者講習 日程表

開催地	開催日		
福井	4月8日(水)	6月3日(水)	8月5日(水)
	10月7日(水)	12月2日(水)	2027年 2月3日(水)
敦賀	6月24日(水)	10月28日(水)	2027年 2月25日(水)

福井会場／第2演習室（定員12名） 敦賀会場／会議室（定員15名）

◆会場所在地

【福井会場】福井県中小企業産業大学校
（福井市下六条町16-15）

【敦賀会場】プラザ萬象（敦賀市東洋町1-1）

お知らせ

令和8年度

一級・二級・木造建築士定期講習について

定期講習は建築士法により建築士事務所に所属する建築士が3年に1回必ず受講しなければいけないこととなっております。

令和5年度中に受講された方は、令和8年度中に受講する義務があります。未受講の方は建築士法違反になりますので、対象の方は必ず受講するようお願いいたします。

建築士会では下記のとおり開催します。

受講申込みは、原則として「インターネットによる受付」のみとなります。（公財建築技術教育普及センターホームページにてお申し込みください。）

第1回	令和8年7月15日(水)（定員70名）
第2回	令和8年10月20日(火)（定員70名）
第3回	令和9年2月17日(水)（定員40名）

ところ：福井県中小企業産業大学（福井市下六条町16-15）

受講料：12,980円

講義方式：DVD講習

※CPD単位が6単位つきます。昼食を用意しています。

令和8年度既存住宅状況調査技術者講習開催

平成28年6月に宅地建物取引業法が一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に「既存住宅状況調査」の説明が義務付けされました。調査の実施は、登録機関の講習を終了した建築士のみに認められる新たな建築士業務です。今年は令和5年度に資格取得された方の3年目の更新時期となります。建築士会では、下記のとおり更新講習2回と新規講習1回を計画しました。是非受講していただきますようご検討ください。

更新講習 CPD2単位（定員24名）

とき：令和8年10月15日(水) 13：30～17：00

令和9年1月20日(水) 13：30～17：00

ところ：福井県中小企業産業大学校 第2演習室

受講料：Web申込…17,000円(税込)、郵送申込…17,600円(税込)

新規講習 CPD5単位（定員12名）

とき：令和8年12月9日(水) 9：30～17：00

ところ：福井県中小企業産業大学校 第2演習室

受講料：Web申込…21,450円(税込)、郵送申込…22,000円(税込)

申込方法：日本建築士会連合会HPよりお申し込みください。

<https://www.kenchikushikai.or.jp>

問合せ先：（一社）福井県建築士会 TEL 0776-24-8781まで

越前おおのめいりんオペラ塾

～オペラ舞台セットづくりワークショップ 募集～

オペラ「カルメン」の舞台セットを作しましょう！！

開催日：2026年10月11日(日) 午前9時～午後4時

場所：(株)サカエ広告社屋（大野市大和町5-6）

内容：舞台セット 壁面2枚に絵を描く

指導：高田 慎也（アート作家）

真柄 正宏（サカエ広告社長）

福井県建築士会青年部が舞台セットの設計を担当！

協力：（一社）福井県建築士会青年部・大野支部

定員：25名（先着順）

会費：無料（昼食お弁当・お茶付き）

応募資格：小学校5年生以上

尚、途中退場可能。途中からの参加可能。

定員になり次第締め切りさせていただきます。

服装は、自由ですが、汚れても良いものでお願いいたします。



お問い合わせ、送付先：〒912-0022 福井県大野市陽明町4丁目605

トレモロ 脇本 淳子 迄

電話：090-2834-2691 Fax：0779-65-8007

お気軽にお問い合わせください。

文化財修理技術者向け現場研修会 中村家住宅①

主催：福井県生涯学習・文化財課、受託：福井県建築士会

福井県内で多くの文化財の修理が行われている状況を活かし、技術者養成と技術力向上のための研修会を令和5年度より開催しています。今年度は3か所計6日間で、1回目は重要文化財・中村家住宅です。昨年度から進捗した修理現場の見学や左官体験を行います。普段は見られない現場に触れる貴重な機会です。ぜひご参加ください！

と き：令和8年9月26日（土）10：00～17：00

ところ：中村家住宅（南越前町河野1-55）

対 象：文化財や歴史的建造物の修理に携わる又は興味のある技術者（設計監理者、施工技術者）および技能者（各種職人等）、行政担当者、建築を専攻する高校生・大学生（高校生は引率者同伴）

内 容：午前 修理現場見学（土蔵）

午後 左官特論、左官体験（漆喰塗・小舞掻き）

講 師：（一財）京都伝統建築技術協会、（有）山本製材、坂井 順一氏

参加費：無料

定 員：30名（定員を超える場合は県内在住または勤務の方を優先）

申 込：事前申込が必要。締切9月21日（月）

右の二次元コードから、

または下記のメールアドレス

ドレスに申し込みください。

問 合：福井県建築士会文化財研修担当

柴田 shibata3904@gmail.com

備 考：集合場所、持物等の詳細は申込受付後にメールを送信。

希望者にCPD単位を発行予定。

建築士会HPの研修案内をご覧ください。



その後の研修は下記で開催。ぜひご参加ください！

・小浜市小浜西組重伝建地区 11月28日（土）、29日（日）

・県指定 高德寺（敦賀市） 12月12日（土）、13日（日）

・重 文 中村家住宅（南越前町） 令和9年2月27日（土）

委員会・ 部会委員募集



福井県建築士会の会員委員会、事業委員会、まちづくり委員会、青年部会など各委員会・部会では若手建築士や意欲ある仲間を随時募集しています。

「建築士の枠を超えた、新しいつながりを。」

実務だけでは得られないネットワークや、自分自身のスキルを広げるチャンスがここにあります。少しでも興味があれば、まずはお気軽にご連絡ください！

連絡先：福井県建築士会事務局 TEL 0776-24-8781

E-Mail info@fukuiken-kenchikushikai.or.jp

【建築士会準会員の会員拡大について】

本会の準会員は、建築士になる資格がある者またはなろうとする者となっています。

今年度からこの準会員に建築に関連のある技術者（施工管理技士等）の資格保有者を含めることとなりました。

ぜひ会員の皆様より、施工管理技士等の資格を保有されている方にお声をかけていただき、建築士会会員の拡大にご協力をお願いいたします。



実務に役立つ書籍販売中！！

どこよりも安い！

① 建築申請 memo2026（新日本法規）

定価5,390円（税込）のところ

特価4,900円（税込）

② 建築消防advice2026（新日本法規）

定価5,830円（税込）のところ

特価5,300円（税込）

③ 2026図解建築法規（新日本法規）

定価4,290円（税込）のところ

特価3,900円（税込）

建築書籍のお求めは建築士会事務局で

老舗木材商「山田銘木店」と「銘木の伝統」（下）～日本人の自然観と美意識～

連載の最後に「銘木」の言葉や思想、歴史的背景をご紹介したい。銘木の「銘」には独特な意味と響きがある。銘は木や石などに取って刻んだ文字（碑銘・墓碑銘など）を指し、また特別な名称を刻むことを「銘を打つ」といい、さらに心に刻む大切な言葉を「座右の銘」という。そして他より秀でた品物の名称を「銘柄」と呼ぶところから「銘菓・銘茶・銘酒・銘刀」等とともに「銘木」や「銘竹」という味わい深く品格のある言葉が生まれてきたのであろう。

なお銘木の言葉が使われ始めたのは明治期のことで、一般的な普及は大正期以降と考えられおり、「茶室」の言葉と同様に、その歴史は比較的新しい。けれどもこうした銘木の言葉が誕生するまでの背景には、日本人の自然観と美意識が見事に創り出した「木造住宅」の1000年を超える悠遠な歴史と伝統が息づいている。

日本の木造住宅の変遷は、庶民の住まいを除くと、古代の「寝殿造」から中世の「書院造」を経て近世の「数寄屋造」に到達し、日本人独特の住文化を形成した。転機となった書院造では、従来の「白木」の造作に新たな創意を加えて「床の間」と呼ぶ格式空間が確立した上に、茶の湯の普及から新たに「茶座敷」が誕生したことで「木」に対する精神性はいっそう深化した。茶匠・千利休は、白木よりも皮付き丸太など所謂「黒木」を新たに尊重し、一つ一つの木肌と味わい、造形の可能性を最大限に引き出し、その美材の「選定」と「取り合わせ」による数寄屋の独自の妙技を洗練させた。こうした「木」をめぐる巧みな意匠性が近世期を通して進展したからこそ、幕末・明治期を迎えて「銘木」の言葉と思想へ結実する。

先日、福井市四ツ井の山田銘木店を訪ね、3代目・松原宏さんと幾種もの銘木に触れながらの対話は実に心地よく楽しかった。銘木の意匠と技術に興味を持たれる方は、ぜひ足を運んではいかがでしょう。（市川 秀和／福井工業大学）



山田銘木店に陳列された「銘木」
（福井市四ツ井）